

Ⅲ 自然環境教育プログラム

Ⅲ-1 プログラム活用の手引き

具体的な活動内容を示したのが、この章の「自然環境教育プログラム」である。以下では各々のプログラムのページの見方を解説する。

Ⅲ-2-1-1 海岸の自然〔対象：小学校低学年〕

プログラム	海岸で生き物と遊ぶ
ねらい	同じ海岸でも砂浜と岩場では棲んでいる生き物が全く違うことに気づかせるとともに、環境と生物の関係を体験的に理解させる。

〔学習の背景〕

- 教科書に載っていない郷土の自然を体験させる。
- 亜熱帯の海岸を体験的に学習することにより、将来温帯地域（本州など）を訪れた時に、郷土の海岸との違いを楽しむと同時に、郷土の豊かさを再認識できるようにさせたい。
- 砂浜と岩礁を連続的に観察することにより、環境による生物の違いを体験的にづけさせたい。
- 砂浜の上に描かれた自然の模様にも注目させたい。

活動	具体的な学習内容
砂浜海岸の自然	砂浜に棲む生き物を探す。穴を掘ってカニ（スナガニ・ツノメガニなど）を捕まえたり、砂地に見られる足跡の正体（オカヤドカリ）を見つける。
岩礁海岸の自然	岩場に棲む生き物を探す。岩についている貝（タマキビ・アマオブネガイ）やカニ（イワガニ）を捕まえて観察する。



授業形態	専門講師による野外実習
実施場所	学校周辺の身近な海岸
観察方法	砂浜で生き物を探す～足跡や巣穴などを探す～岩礁で生き物を探す～捕まえた生き物をプラ製水槽に入れて観察をする～砂浜と岩礁の生き物を比較する
使用する機器	プラ製水槽
実施時期	4～9月。 10月以降は北風で寒いため、海辺での観察には不向き。
所要時間	2時間
対象学年・教科・単元	・ 小学校 生活科 第1学年及び第2学年 1.目標-(2) 2.内容-(5)
支援機関	環境省西表自然保護官事務所、西表島エコツーリズム協会
備考	露天での観察が多いので、帽子は必ず着用する。また、熱中症の予防のため、休憩と水分補給に気を配る。

各プログラムで最終的に到達させたい目的を「ねらい」として掲げた。「ねらい」はあくまでも生徒自身が体験活動を通して「気づく」ことを主眼とするが、必要に応じて教える。

「学習の背景」はプログラムの意図であり、その背後にある必要性を説明している。

プログラムにおける中間目標でもある「具体的な学習内容」を掲げ、活動を積み上げることによって最終的な「ねらい」に到達できるよう配慮した。これらはあくまでも事例であり、フィールドの状況や天候・季節・指導者等の要因によって、より適切なプログラムに修正しながら実践して頂く。

「授業形態」はプログラムを学校で実施する際の枠組みを、実施場所はプログラムが行われるフィールドを示している。

新たに追加したのが「観察方法」と「使用する機器」の項であり、活動に観察が伴う場合の手順や、その際に用いる機器を示して、プログラムをイメージしやすくした。

「実施時期」はプログラムを実施するのに適切な時期であり、それに要する目安時間を「所要時間」で表した。

「対象学年・教科・単元」は、プログラムと指導要領との関連についての要望を受け追加した。

「支援機関」はプログラムを実施する際に講師派遣や機材の貸出、ノウハウ提供等を行う関係機関のことである。